

年	児童の実態	授業改善の視点とその方策	2月検証
1	・落ち着いて授業を受けることができる。意欲的で話もよく聞ける。	・図工の様々な表現を経験させ、図工の楽しさを教える。	・素材に興味をもち、自分の考えを作品に生き生きと表現できた。技法を身に付けながら完成まで、楽しくしっかり取り組めた。
2	・楽しく制作を行える。落ち着いて授業に向かえるようになってきた。	・発想が豊かな学年なので、さまざまな素材や技法を取り入れて学習を深めさせたい。	・意欲がもてる素材の扱いを紹介することで、児童の発想をより広げることができた。作品を通して友達とのかかわりもスムーズに行えてきている。
3	・楽しく制作を行える。友達の作品を、気にしすぎる傾向が見られる。	・授業の基本的ルール（先生、友達の話を聞けること、道具の片付けなど）をくりかえし指導し、身に付けさせる。よい点を見つけ、褒めるようにし、自分の作品に自信をもたせる。	・個々の特性を生かせる素材題材を、提示してきたが十分とはいえない。自分のよさや友達との違いに、自信がもてるような指導方法やかかわりをさらに追求してゆく。
4	・落ち着いて制作に取り組める。準備や片付けもしっかりできる。人数は少ないが個性的な作品を作ろうとする。	・多様な技法を体験するなかで自分らしい表し方を見つけさせる。	・落ち着いた授業態度で作品に取り組めた。作業は丁寧で、完成まで自分らしい表現にしようと意欲的である。共同作品では少ない人数にもかかわらず、大きな作品を仕上げることができた。
5	・落ち着いて授業を受けることができる。理解力も高い。粘り強く制作することもできる。	・現代作家の作品鑑賞などを経験させ、絵画表現の幅広さ、自由さを教える。	・新しい素材や題材の扱いを経験させることで、技能を習熟させ確実に活用することができた。作家の表現を鑑賞する学習は折に触れ継続し、多様な世界観に触れる必要性を感じる
6	・全員の仲がとてもよい。集中して授業に向かえる。協力しての作業もきちんとできる。	・様々な表現法を経験させ、一層表現の幅を広げさせる。	・迷うことなく素材に向かう態度が、各自の作品の個性として直に出すことができた。卒業制作では、みなぎ協力して考えたり作業したりできていてすばらしい。

